

薬学部の養成する人材像，教育の方針

教育の基本的目標

薬学部は、薬をはじめヒトに影響する物質を、調べ、作り、医療で活用できる教育を行います。また、科学的知見に基づき社会を先導していけるよう、科学的活動に適切な考え方や表現の方法の教育を重視します。これにより各人がさらに卒後大学院などにて自ら科学的な活動を進めていく素地の教育となることを期します。

養成する人材像

ヒトに影響する物質を、調べ、作り、医療で活用でき、また科学的活動に適切な思考表現技術を有する人材を養成します。

ヒトに影響する物質を活用するために、故きを温ねて新しきを知るすべをもつ、医療人

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力
- 課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力
- 共有・議論できるコミュニケーション力
- 薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力
- 自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力

以上の本学部の「教育の方針」を踏まえて、各学科の教育の方針は以下のとおりです。

薬学部薬学科 教育の方針

本学部の「教育の方針」を踏まえて、薬学部薬学科の教育の方針は以下のとおりです。

教育の基本的目標

薬学部薬学科は、薬をはじめヒトに影響する物質が調べ作られ使われてきたこれまでの知識の体系を教育することを通じ、そうした物質を国家資格である薬剤師免許を持って医療で有益に活用していける基礎を作る教育を行います。また、科学的知見に基づいて社会の変化を先導していく能力を得られるように、科学的活動に適切な考え方や表現の方法を教育します。これにより各人がさらに卒後大学院などにて自ら科学的な活動を進めていく素地の教育となることを期します。

養成する人材像

ヒトに影響する物質について、調べ作られてきた知識体系を通じ、医療で活用していける、また科学的活動に適切な思考表現技術を有する人材を養成します。

ヒトに影響する物質を活用するために、故きを踏まえ正確に行動できる、医療人

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力
- 課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力
- 共有・議論できるコミュニケーション力
- 薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力

- 自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力

薬学部薬学科 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

薬学部薬学科は、人体に影響する物質を、探し調べた知識体系を通じ、医療で活用できる人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力

薬学や関連分野における身近で多様な課題を解決するために、能動的に挑戦できる

【探究力】課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力

自発的な疑問に多面的な検討を加え、薬学や関連分野における課題とその解決策を発見できる

【コミュニケーション力】共有・議論できるコミュニケーション力

人との共感的態度を持ち、研究背景や得られた成果を集団の中で共有・議論できる

【専門力】薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力

薬学や関連分野の研究の遂行に必要な、基礎的かつ体系的な専門知識と技能を身につけている

【教養力】自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力

自然や社会に関する多様な問題に対して、好奇心を持って学び続けることができる

なお、修得できる力と、薬剤師として求められる基本的な資質・能力との関係性は別紙1の通りです。

薬学部創薬科学科 教育の方針

本学部の「教育の方針」を踏まえて、薬学部創薬科学科の教育の方針は以下のとおりです。

教育の基本的目標

薬学部創薬科学科は、薬をはじめヒトに影響する物質について、過去の関連する専門的な知識の体系を教育します。またこの知識体系をもとにしながら、新たに、ヒトに影響する物質を調べ、あるいは作り、あるいは医療で活用する方法を案出するための基礎となる、科学的活動に適切な思考方法や表現技術を教育します。これにより各人がさらに卒業大学院などにて自ら科学的な活動を進めていく素地の教育となることを期します。

養成する人材像

ヒトに影響する物質を、過去の知識体系を踏まえて、新たに、調べ、作り、医療活用の方法を案出するための基礎である、科学的活動に適切な思考表現技術を有する人材を養成します。

ヒトに影響する物質を新たに創るために、故きを温ねて新しきを知るすべをもつ、医療人

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力
- 課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力
- 共有・議論できるコミュニケーション力
- 薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力
- 自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力

薬学部創薬科学科 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

薬学部創薬科学科は、人体に影響する物質を、新たに、探し、調べ、活用の方法を考案していける人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力

創薬科学に関する身近で多様な課題を解決するために、能動的に挑戦できる

【探究力】課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力

自発的な疑問に多面的な検討を加え、創薬科学に関する課題とその解決策を発見できる

【コミュニケーション力】共有・議論できるコミュニケーション力

人との共感的態度を持ち、研究背景や得られた成果を集団の中で共有・議論できる

【専門力】薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力

創薬科学研究の遂行に必要な、基礎的かつ体系的な専門知識と技能を身につけている

【教養力】自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力

自然や社会に関する多様な問題に対して、好奇心を持って学び続けることができる

薬学部薬学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、薬学部薬学科として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

薬学部薬学科では、本学部ディグリー・ポリシーに掲げる5つの力（実践力、探究力、コミュニケーション力、専門力、教養力）を備え世界の多様な課題に取り組み、人類社会の持続的・恒久的な発展に貢献できる人材を育成するため、全学共通科目、英語科目、専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

【5つの力との対応】

「課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力」を培うために、基礎・応用科目を基盤とする臨床系科目と実践能力を培う実務実習を提供します。

「課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力」を培うために、合目的に広範な情報を収集し、的確に分析・精選した情報を活用できる演習・実習関連科目、未知の課題に取り組む卒業研究を提供します。

「共有・議論できるコミュニケーション力」を育成するために、共感的態度やコミュニケーション能力を培う早期体験科目と言語教育科目、及びこれらを礎に他者との関わり方を学ぶ実習関連科目、研究成果の議論の仕方を学ぶ卒業研究を提供します。

「薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力」を修得するために、物理・化学・生物系の基礎科目と実習関連科目、基礎科目に関連付けた衛生系、薬理・薬剤系の応用科目と実習関連科目を提供します。

「自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力」を涵養するために、全学共通科目や全学交流科目を提供します。

なお、対応のさらなる詳細については別紙2の通りです。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。自分の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ基礎的な専門知識及び技能を、学生同士切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異分野化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を提供します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ①【共通教育】1年次には、全学共通科目と全学交流科目を学びます。
- ②【専門教育】1年次には、専門基礎科目、および物理化学、分析化学、有機化学、生物化学などの専門科目を学びます。2年次以降では、それらと有機的に関連付けた、衛生系、薬理・薬剤系の応用科目が設定されています。3年次・4年次・5年次では、臨床に関わる専門教育科目と卒業研究のための準備教育科目を学び、6年次では、配属された研究室での卒業研究を中心とした密度の濃い専門教育科目を学びます。講義科目と実験科目の連携により、観察－仮説－実証－報告という薬学研究に共通する方法論を身につけるための授業が提供されています。また、これらの授業の中には、発表や議論する機会が設けられているものも多数あり、情報処理能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、共感力、国際性などが身につきます。最先端の科学を自ら実施することで、社会の要請に応える専門知識と実践的技術を獲得できる内容になっています。
- ③【言語教育】1年次、2年次では、英語科目を学びます。3年次以降は、専門教育科目として専門分野に関連した英語科目が設定されています。

学修評価の考え方

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、発表、授業態度などで評価することとし、その方法はシラバスに、基準及び達成すべき水準は学部学生便覧にそれぞれ明示されています。また、プログラムレベルの学修評価については、別紙3に定めるアセスメントプランに従って実施します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

薬学部創薬科学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、薬学部創薬科学科として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

薬学部創薬科学科では、本学部ディグリー・ポリシーに掲げる5つの力（実践力、探究力、コミュニケーション力、専門力、教養力）を備え世界の多様な課題に取り組み、人類社会の持続的・恒久的な発展に貢献できる人材を育成するため、全学共通科目、英語科目、専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

【5つの力との対応】

「課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力」を培うために、合目的に広範な情報を収集し、的確に分析・精選した情報を活用できる演習・実習関連科目を提供します。

「課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力」を培うために、未知の課題に取り組む卒業研究実習を提供します。

「共有・議論できるコミュニケーション力」を育成するために、共感的態度やコミュニケーション能力を培う早期体験科目と言語教育科目、及び研究成果の議論の仕方を学ぶ卒業研究実習を提供します。

「薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力」を修得するために、物理・化学・生物系の基礎科目と実習関連科目、基礎科目に関連付けた衛生系、薬理・薬剤系の応用科目と実習関連科目を提供します。

「自然や社会に関する多様な問題に対して好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力」を涵養するために、全学共通科目や全学交流科目を提供します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。自分の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ基礎的な専門知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異分野化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を提供します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ①【共通教育】1年次には、全学共通科目と全学交流科目を学びます。
- ②【専門教育】1年次には、専門基礎科目、および物理化学、分析化学、有機化学、生物化学などの専門科目を学びます。2年次以降では、それらと有機的に関連付けた、衛生系、薬理・薬剤系の応用科目が設定されています。3年次には、実験の基礎を修得するための実験科目と配属された研究室での卒業研究のための準備教育科目を学びます。4年次では、卒業研究を中心とした密度の濃い専門教育を提供しています。講義科目と実験科目の連携により、観察－仮説－実証－報告という薬学研究に共通する方法論を身につけるための授業が提供されています。また、これらの授業の中には、発表や議論する機会が設けられているものも多数あり、情報処理能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、共感力、国際性などが身につきます。最先端の科学を自ら実施することで、社会の要請に応える専門知識と実践的技術を獲得できる内容になっています。
- ③【言語教育】1年次、2年次では、英語科目を学びます。3年次以降は、専門教育科目として専門分野に関連した英語科目が設定されています。

学修評価の考え方

各科目の学修成果は、定期試験、レポート、発表、授業態度などで評価することとし、その方法はシラバスに、基準及び達成すべき水準は学部学生便覧にそれぞれ明示されています。また、プログラムレベルの学修評価については、別紙4に定めるアセスメントプランに従って実施する。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

(別紙 1)

修得できる 5 つの力は、薬剤師に求められる基本的な資質・能力を獲得するために活用されます。

- ・【実践力】① ② ⑤ ⑥ ⑦ ⑨
- ・【探究力】① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑨
- ・【コミュニケーション力】⑥ ⑧ ⑨
- ・【専門力】① ② ⑥ ⑦ ⑨
- ・【教養力】② ③ ⑨ ⑩

薬剤師として求められる基本的な資質・能力

- ① プロフェッショナリズム
- ② 総合的に患者・生活者をみる姿勢
- ③ 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- ④ 科学的探究
- ⑤ 専門知識に基づいた問題解決能力
- ⑥ 情報・科学技術を活かす能力
- ⑦ 薬物治療の実践的能力
- ⑧ コミュニケーション能力
- ⑨ 多職種連携能力
- ⑩ 社会における医療の役割の理解

（別紙２）薬学部薬学科の具体的な履修の展開

１．専門教育で培った知識と技能を応用し、実践力を身につける実務実習教育

１番目のディグリー・ポリシー「課題を理解し、自ら進んで解決に挑む実践力」を培うために、基礎・応用科目を基盤とする臨床系科目と実践能力を培う実務実習を提供します。

【概要】

１年次から３年次で学ぶ基礎・応用科目（物理・化学・生物系および衛生系、薬理・薬剤系）で身に付けた知識を発展的に活用する臨床系科目と実務実習科目を１年次から５年次で順次履修します。１年次には、多職種連携と人体解剖学を履修することで、臨床で必要とされる技能についての理解を深めるとともに、薬剤師としてのプロフェッショナルリズムや患者を見る姿勢を学びます。人体解剖学では、実際の人体の構造を観察し、解剖学・生理学に関する個別の知識の有機的統合をはかります。２年次には、臨床治療学概論において臨床的病態の基礎知識を学びます。３年次には、多職種連携と薬物治療学を履修します。薬物治療学においては、将来薬剤師業務や創薬研究などを進めるにあたって知っておくべき臨床症状の成り立ちと臨床医学的な思考方法を学び、それらに基づいた薬剤の選択や薬剤の開発要素を学びます。４年次には、臨床準備教育、臨床医薬品治療学、薬事法規・薬事行政を学び、薬剤師業務で必要となる実践的な知識を学びます。５年次では、病院・薬局実務実習に参加し、薬剤師に必要な技能と態度を学びます。これらの臨床系科目・実務実習科目を学ぶことで、基礎・応用科目で身につけた知識が薬物治療の実践的な力として身に付きます。とくに多職種連携科目においては、医学部（医学科、保健学科）、歯学部と連携して、現代の医療で欠かせないチーム医療の基礎知識、必要な技能を習得します。

【評価】

講義科目においては、定期試験やレポートにより、必要な知識が身についたかを評価します。定期試験においては、表層的な知識だけでなく、それぞれの科目が目指す概念的理解が得られているかについて、論述テスト（パフォーマンス課題）による評価に努めます。実習科目においては、授業態度、実習後の発表などにより、技能が身についているかを評価します。４年次までに習得した知識・技能は、薬学共用試験（CBT・OSCE）で評価します。

２．多様な問題を見出し、解決する能力を養うための薬学研究教育

２番目のディグリー・ポリシー「課題を自ら見出し、解決策を考案できる探究力」を培うために、合目的に広範な情報を収集し、的確に分析・精選した情報を活用できる演習・実習関連科目、未知の課題に取り組む卒業研究を提供します。

【概要】

１年次と２年次には、薬学研究入門を受講することができます。薬学研究入門では、最先端の研究にふれることで、研究に対する理解を深め、未知の課題を考え、未知の科学的課題に挑戦する機会を得ることができます。３年次には、薬学基本実習、物理系基礎実習、化学系基礎実習、生物系基礎実習、衛生系基礎実習、医療系基礎実習を受講することで、各分野における未知の課題に対する科学的アプローチの仕方、ならびに実験手技を学びます。４年次には卒業研究基礎実習、５年次と６年次には卒業研究実習を受講します。これらの研究実習においては、学生は研究室に所属し、未知の研究テーマを設定し、研究を推進します。卒業研究実習の研究成果は、卒業研究発表会にて発表し、薬学部の教員から質問を受けます。

【評価】

実習科目においては、授業態度、実習後の発表、実習後のレポートなどにより、技能と態度が身についているかを評価します。また、卒業研究実習については、指導教員からの実習中の技能や態度の

評価だけではなく、卒業研究発表会において研究成果の新規性と重要性、ならびにプレゼンテーションと質疑応答について指導教員以外の教員から評価されます。

3. 共感的態度を培い、他者との関わり方を学ぶコミュニケーション教育

3 番目のディグリー・ポリシー「共有・議論できるコミュニケーション力」を育成するために、共感的態度やコミュニケーション能力を培う早期体験科目と言語教育科目、及びこれらを礎に他者との関わり方を学ぶ実習関連科目、研究成果の議論の仕方を学ぶ卒業研究を提供します。

【概要】

1 年次と 2 年次には、SGD 入門と早期体験学習において、数人のグループに分かれ、スモールグループディスカッションを学びます。SGD 入門においては社会全般の話題について、早期体験学習においては薬剤師業務に関連した問題について、ディスカッションをおこなうことにより、薬剤師や関連分野におけるコミュニケーション能力を高めます。3 年次には、薬剤師倫理学において倫理に関連したスモールグループディスカッションをおこない、倫理的問題の把握と倫理に関連した他者への関わり方を学びます。薬剤師、その他の職務における英語でのコミュニケーションができるように、1 年次から 6 年次にかけて、継続して英語を学びます。3 年次以降においては、薬学分野の専門英語を学ぶことで専門分野における英語コミュニケーションの上達をめざします。実務実習においては、薬剤師業務に関連したコミュニケーション、卒業研究実習では研究に関連したコミュニケーションを学びます。

【評価】

スモールグループディスカッションの科目においては、授業態度、実習中の発表やコミュニケーション、実習後のレポートなどにより、技能と態度が身についているかを評価します。また、英語科目においては、期末テストにおけるライティングとリスニングの評価をおこないます。実務実習と卒業研究実習においては、実習中の態度、実習後の発表、実習後のレポートなどにより、技能と態度が身についているかを評価します。

4. 薬学を自然科学の一分野として理解し、科学的素養を身につける薬学基礎教育

4 番目のディグリー・ポリシー「薬学に関する基礎的かつ体系的な専門力」を修得するために、物理・化学・生物系の基礎科目と実習関連科目、基礎科目に関連付けた衛生系、薬理・薬剤系の応用科目と実習関連科目を提供します。

【概要】

1 年次には、基礎化学、基礎物理学、基礎生物学を学ぶことで、薬学分野で必要とされる高校理科の知識の復習と定着を図ります。これらの科目の履修後、1 年次から 2 年次にかけて、有機化学、物理化学、生物化学、分析科学、天然物化学など、物理・化学・生物系の基礎科目を履修します。2 年次から 3 年次にかけては、免疫学、薬理学、衛生化学、微生物学、薬剤学など、基礎科目に関連付けた応用科目を学びます。また、これらの講義を履修後の 3 年次には、薬学基本実習、物理系基礎実習、化学系基礎実習、生物系基礎実習、衛生系基礎実習、医療系基礎実習を受講することで、それぞれの分野における実験手技と未知問題に対するアプローチの仕方を学びます。これらの基礎科目、応用科目、実習関連科目で身につける知識と技能は、1 の臨床系科目と実務実習の土台となり、専門知識に基づいた実践能力を身につける上で役立ちます。

【評価】

講義科目においては、定期試験やレポートにより、必要な知識が身についたかを評価します。定期試験においては、表層的な知識だけでなく、それぞれの科目が目指す概念的理解が得られているかについて、論述テスト（パフォーマンス課題）による評価に努めます。実習科目においては、授業態度、実習後の発表などにより、技能が身についているかを評価します。

5. 豊かな人間性、主体性、思考力・表現力を身につけるための教養教育

5 番目のディグリー・ポリシー「好奇心を持ち、生涯にわたり学び続けることができる教養力」を涵養するために、全学共通科目や全学交流科目を提供します。

【概要】

1 年次、2 年次には、全学共通科目において、課題探究、情報・数理データサイエンス、健康・スポーツ科学、市民性と異文化理解を受講し、幅広い教養と多様な分野に対する好奇心を高めます。課題探究では、課題を見出し、課題解決に挑む姿勢と能力を獲得することを目標としています。情報・数理データサイエンスでは、社会人として必須である情報リテラシー、ICT 活用能力、データ活用能力を習得します。健康・スポーツ科学では、生涯にわたって学び続ける際に必須となる健康づくりを学び、スポーツを通じて課題解決能力を養います。市民性と異文化理解においては、多様な価値観と多様な文化的背景の人々で構成される現代社会のあり方を学びます。全学交流科目においては、岡山大学全学部が社会系、生命系、自然系に分かれて先端研究について講義します。学生は多様な分野の先端研究に触れることで、深い教養と探究心を身につけます。また、1 年次と 2 年次の SGD 入門と早期体験学習、その後の多職種連携科目では社会における医療の役割について学びます。

【評価】

講義科目においては、定期試験やレポートにより、必要な知識が身についたかを評価します。課題探究においては、授業態度、実習後の発表などにより、技能や態度が身についているかを評価します。

学修成果の評価

1～5 の教育を通じて、ディグリー・ポリシーで掲げた 5 つの力がどの程度修得できているかについては、年に 1 回、ルーブリックを用いて学生と教員がそれぞれ評価を行い、必要に応じて履修指導を行います。学年進行に伴って経時的に評価を行うことで、5 つの力の修得状況を段階的に把握することができます。

(別紙3) 岡山大学薬学部薬学科アセスメント・プラン

岡山大学薬学部薬学科では、以下に定める指標を用いて、教学アセスメントを計画、実施します。
岡山大学および岡山大学薬学部薬学科で定める3ポリシーの達成度評価を行い、関連する教育方法の改善に活かします。
アセスメントの指標となる項目については、必要に応じて精査・見直しを行います。

アドミSSION・ポリシー

評価実施時期	大学レベル	学部・学科レベル	実施者	科目レベル	実施者
入学前	入学者選抜における平均点	(左記と同項目)	入試委員会		
	(大学入学共通テスト・個別学力検査)		入試委員会		
入学直後	英語学力アセスメントテスト		教務委員会		
	新入生に対する全学共通アンケート		入試委員会		

カリキュラム・ポリシー

評価実施時期	大学レベル	学部・学科レベル	実施者	科目レベル	実施者
随時	GPA数値	(左記と同項目)	教務委員会		
	休学者数・退学者数		教務委員会		
各学期あるいは は半期終了後		授業評価アンケートの分析	教務委員会	授業評価アンケート	学生
		成績不振候補者の抽出と担任面談	教務委員会	成績評価	各教員
		進級条件の確認	教授会・教務委員会		
		カリキュラムの確認	教授会・教務委員会	各分野別会議で実施される当該年度授業の 振り返りと授業内容の見直し 授業計画、シラバス検討	各教員
3月	修得単位数	進級判定	教授会・教務委員会		

ディグリー・ポリシー

評価実施時期	大学レベル	学部・学科レベル	実施者	科目レベル	実施者
各学期終了後				各科目毎の成績評価確認	学生
毎年1回				ディグリー・ポリシー到達度評価	学生 指導教員 又は担任
随時		卒業論文評価ルーブリックの見直し	教務委員会	卒業論文発表会の実施	学生 指導教員 調査教員
			教授会・教務委員会	卒業論文の執筆	学生
1月～3月	卒業論文成績	卒業判定	教授会・教務委員会		
4月	卒業生に対する全学共通アンケート	(左記と同項目)	教務委員会		
	ステークホルダーアンケート				
	就職率 薬利師国家試験合格率				

(別紙４) 岡山大学薬学部創薬科学科アクセスメント・プラン

岡山大学薬学部創薬科学科では、以下に定める指標を用いて、教学アセスメントを計画，実施します。
岡山大学および岡山大学薬学部創薬科学科で定める３ポリシーの達成度評価を行い，関連する教育方法の改善に活かします。
アセスメントの指標となる項目については，必要に応じて精査・見直しを行います。

アドミッション・ポリシー

評価実施時期	大学レベル	学部・学科レベル	実施者	科目レベル	実施者
入学前	入学者選抜における平均点 (大学入学共通テスト・個別学力検査)	(左記と同項目)	入試委員会		
	英語学力アセスメントテスト		教務委員会		
入学直後	新入生に対する全学共通アンケート		入試委員会		

カリキュラム・ポリシー

評価実施時期	大学レベル	学部・学科レベル	実施者	科目レベル	実施者
随時	GPA数値	(左記と同項目)	教務委員会		
	休学者数・退学者数		教務委員会		
各学期あるいは は半期終了後		授業評価アンケートの分析	教務委員会	授業評価アンケート	学生
		成績不振候補者の抽出と担任面談	教務委員会	成績評価	各教員
		進級条件の確認	教授会・教務委員会		
		専門科目カリキュラムの確認	教授会・教務委員会	各分野別会議で実施される当該年度授業の 振り返りと授業内容の見直し	各教員
3月	修得単位数	進級判定	教授会・教務委員会	授業計画，シラバス検討	各教員

ディグリー・ポリシー

評価実施時期	大学レベル	学部・学科レベル	実施者	科目レベル	実施者
各学期終了後				各科目毎の成績評価確認	学生
随時		卒業論文評価ルーブリックの見直し	教務委員会		
1月～3月	卒業論文成績	卒業判定 (左記と同項目)	教授会・教務委員会	卒業論文の執筆	学生
	卒業生に対する全学共通アンケート				
	ステークホルダーアンケート				
	就職率		教務委員会		
4月	大学院進学率				